

授業概要

現代社会では、「読書離れ」「活字離れ」といった状況の進行や、メディア環境の多様化といった状況がある。このような状況下で、児童生徒がそもそも読書をする意味の捉えなおしや、読書活動やその指導を推進する必要性について、教員として考えを深めることの重要性が増している。

本授業は、以上の状況を踏まえながら、児童生徒が読書活動を行う意味について、受講者各自が自分なりの説明をすることができるようになることを目指す。そのため、読書と教育をめぐる基礎的な知識を「歴史」と「現状」という視点から講義する。併せて、児童生徒の発達段階に応じた読書に関わる活動や、学校における読書指導の推進に関する理念と方法について講義・指導する。

授業計画

第1回	オリエンテーション：自身の読書経験をふりかえる
第2回	児童生徒の読書に関する理念・歴史・現状
第3回	学校教育における読書指導の歴史・現状
第4回	生涯学習における読書の歴史・現状
第5回	さまざまな読書活動の理念と方法①（読み聞かせとブックトーク）
第6回	さまざまな読書活動の理念と方法②（読書へのアニメーション）
第7回	さまざまな読書活動の理念と方法③（読者想定法）
第8回	さまざまな読書活動の理念と方法④（本のポップ作り）
第9回	さまざまな読書活動の理念と方法⑤（ビブリオバトル）
第10回	読書をめぐる児童生徒の認知発達と社会文化的文脈の多様性
第11回	読書指導の視点を取り入れた学習・ワークショップの企画
第12回	読書指導の視点を取り入れた学習・ワークショップの実践①
第13回	読書指導の視点を取り入れた学習・ワークショップの実践②
第14回	読書教育とリテラシー
第15回	まとめ：学校教育における読書活動の理念と指導の方法
第16回	期末課題の提出

到達目標

- ・児童生徒が読書活動を行う意味について、受講者各自が自分なりの説明をすることができる。
- ・児童生徒の読書活動を推進する学習機会の企画や考案に関する基礎的事項を理解することができる。
- ・さまざまな読書指導の方法を考案・実践することができる。

履修上の注意

- ・10分以上の遅刻は欠席とみなすので注意すること。
- ・毎回のリアクションペーパーについて、欠席回および遅れて提出されたものについては原則成績に参入しないので注意すること。ただし、実習等やむを得ない事情がある場合は考慮するので必ず事前に申し出ること。
- ・Teams を使うため、情報機器（PC 推奨、タブレット端末・スマートフォン等も可）を毎回持参すること。

予習・復習

- ・予習：授業の進捗に応じて適宜指示する。
- ・復習：毎回のリアクションペーパー作成を通じて丁寧に行うこと。詳しくは初回に案内する。

評価方法

- ・授業各回の内容理解：30%（リアクションペーパー（毎回提出）の内容で評価する）
- ・授業内容の理解と取り組み：40%（授業内成果物の内容で評価する）
- ・授業全体の内容理解と考察：30%（期末課題で評価する）

テキスト

- ・野口武悟編『学校図書館基本資料集 改訂版』全国学校図書館協議会、2020 年、ISBN：978-4-7933-0101-8
- ・その他、資料を配布する。